Japan Swine Farm Business Cooperation

TONJIKYO

ゆめ通信

2025. 5. 1. No.139

発　行　日本養豚事業協同組合
〒104-0033　東京都中央区新川2-1-10
八重洲早川第2ビル6階
TEL.03-6262-8990　FAX.03-6262-8991

最高のデュロック種雄豚と最高のAIサービス「選ぶだけで変わる未来―精液ひとつで経営改善！」

株式会社メンデルジャパン　蜷川　琢磨

■はじめに

日頃より「メンデルデュロックAI用精液プラスワン」をご利用いただき、誠にありがとうございます。

近年、飼料や資材の価格高騰、労働力不足、生産者の高齢化など、畜産業を取り巻く環境は大きく変化しており、私たちもその変化に柔軟に対応していく必要があります。

こうした厳しい状況の中で、経営改善にすぐ取り組める対策の一つが「精液の選定」です。

育種改良の技術は日々進化しており、選ぶ精液によって生産性に大きな差が生まれます。

本号の「ゆめ通信」では、弊社の取り組みや「プラスワン」の特長をご紹介いたします。

特に、まだ本製品をご利用いただいていない生産者の皆様には、ぜひ本号をご一読いただき、比較試験やベンチマーキングを通じて、他社製品との違いや「プラスワン」の効果を客観的にご確認いただければ幸いです。

■生産者の最良のパートナーであり続けるために

メンデルジャパンは、生産者の収益性向上を使命として設立され、今年で第34期を迎えました。

私たちの存在意義は、ユーザーである生産者の皆様に、持続的な利益をもたらせるかどうかにかかっています。

５年後、10年後の未来を見据え、生産者にとって真に価値あるデュロック種とは何かを常に問い続け、育種改良に取り組んでいます。

また、社会や市場の変化が加速するなか、柔軟かつ迅速に対応するため、2025年３月27日付で取締役の世代交代を実施いたしました。

今後も変化を恐れず、挑戦を続けながら、生産者の皆様とともに歩んでまいります。

■メンデルデュロックの育種目標

メンデルデュロックは育種目標として、増体・飼料要求率・脂肪率・肉質・強健性の５項目を掲げ、バランスブリーディングを採用し、継続的な改良に取り組んでいます。

これらの項目は、生産者の収益性向上はもちろん、食肉産業全体や変化する市場ニーズに応えるためにも不可欠な要素です。

■最先端の育種改良体制とデータ活用

2018年、メンデルジャパンは海外の育種会社と技術提携を結び、世界水準の育種改良プログラムを導入しました。

それから７年が経ち、現在では国内で蓄積された膨大なデータ群を基に、より実践的かつ精度の高い改良を行っています。

育種の基盤となるのは、母豚250頭からなる育種資源群です。そこから生まれるすべての子豚について、生時体重の測定から始まり、正確な増体重および飼料要求率を把握するために、国内最多となる25台（１台約200万円）のパフォーマンステストフィーダーを導入しています。

さらに、生体筋スキャン技術も活用し、年間で雄豚1,200頭、雌豚1,100頭以上の個体検定を実施してい

Dail gain 40-120kg	Backfat 120kg	FCR 120kg
1449	19.3	2.11

図１　メンデルデュロック雄豚の成績2024

ます。図１はパフォーマンステストフィーダーと生体筋スキャンにて測定された2024年１年間のメンデルデュロック種雄豚の成績になります。

こうして収集された多岐にわたるデータをもとに、最終的には TSI（Total Selection Index：総合選抜指数）を算出し、それに基づいて次世代の種豚が選抜されます。

この仕組みにより、より優れた遺伝的価値を持つ豚の育成が可能となっています。

■育種改良の推移

図２および図３は、増体量および飼料要求率の過去５年間における改良の推移を示したものです。

この期間において、増体量は161gの向上、飼料要求率は0.19の改善を達成しました。

これらの成果は、継続的な遺伝的選抜とデータに基づいた育種戦略の結果であり、私たちが提供する精液を通じて、改良された遺伝子として皆様のもとへ届けられています。

また、図４および図５には、2030年までに目指す増体量および飼料要求率の目標値が示されています。

増体量は年間32.2gの改善、飼料要求率は年間－0.038の改善を目標に進めており、現場での成果につながる確かな遺伝改良を、信頼できるデータと技術で支えてまいります。

■日々進化する精液（遺伝子）供給体制

2019年、メンデルジャパンは精液の品質をさらに保証するため、国際的なリーディングカンパニーであるAIM WorldWide社と提携しました。

最新技術を導入し、高品質な精液の安定供給体制を整備しています。

この取り組みにより、ユーザーの皆様には以下のような高水準の精液を提供しています。

・高バイオセキュリティと厳格な衛生プロトコルのもと、最新技術で製造された、優れた遺伝的・技術的品質
・高度な教育・訓練を受けた専門スタッフによる、精密かつ継続的な精液評価と厳格な品質管理
・最高品質の資材と設備を活用した検査・充填・出荷体制、および信頼性の高い輸送基準

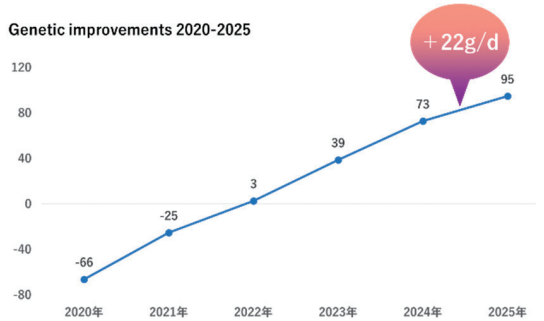


図２　増体量

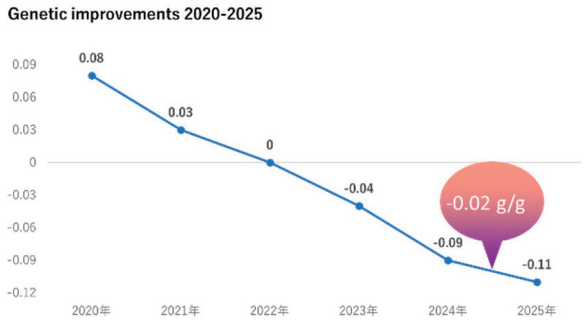


図３　飼料要求率

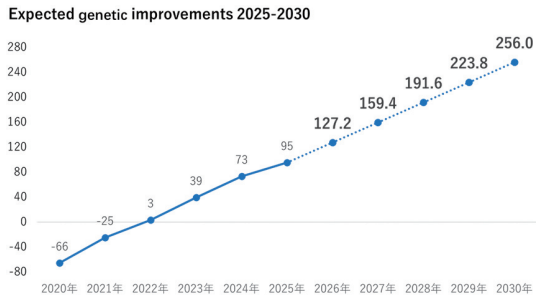


図４　増体量2030年

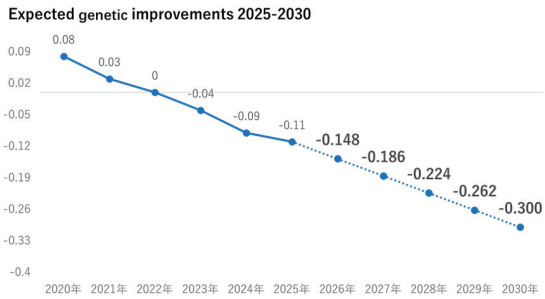


図５　飼料要求率2030年

また、バイオセキュリティをさらに強化するため、精液採取農場と精液処理･発送センターを完全に分離。この構造により、汚染リスクを最小限に抑えています。

さらに、以下のような最新設備や体制も導入しています：

・CASA（精液運動解析システム）による、精子の動き・形態・活力の自動評価

・すべての生産日でバクテリア混入や有害菌のモニタリングを実施

・万一の異常にも迅速に対応できる管理体制を整備

加えて、精液に対する温度ストレスやダメージの最小化にも注力しています。

生産時および梱包時の室温管理、精液・希釈液等の液体温度管理を徹底し、その記録は品質管理データとして蓄積・保管されています。

さらに、一部のお客様のご協力のもと、輸送時の温度モニタリングも行い、収集データを活用して継続的な改善に取り組んでいます。

精液の輸送箱についても、外気の影響を受けにくい構造を採用しており、コロナワクチン輸送箱と同等仕様の専用容器を使用しています。

ここでは紹介しきれないほど多くの品質管理項目がありますが、今後も徹底した品質管理と最新技術のもと、高品質な精液を確実にお届けする体制をさらに強化してまいります。

■品質管理と技術力のさらなる向上に向けて

弊社では、品質管理およびバイオセキュリティ対策の強化に継続的に取り組み、日々の改善活動を重ねています。

特に、AIM WorldWide社のAI専門チームによる外部監査は年２回実施されており、200項目を超える厳格なチェックリストに基づいて、生産工程の詳細な監査が行われます。

加えて、外部監査にあわせて改善指導や、ワークショップ形式での従業員教育も実施。各AIセンターのスタッフが常に最新の技術や知識を学び、現場に活かすことで、より高品質で安定したAIサービスの提供を可能にしています。

図６では、弊社からご購入いただいた精液と、自社で採取された精液との受胎率の差が示されています。

	購入精液（メンデル）	自家産	混在	全体
種付頭数	103	207	83	393
受胎	96	167	67	330
不受胎	7	40	16	63
受胎率	93.2%	80.7%	80.7%	84.0%

『有限会社サミットベテリナリーサービス提供』

図６　Ｚ農場種付成績（2024年３～５月）

このデータからも、弊社の精液が高い受胎率に寄与していることをご確認いただけるかと存じます。

■供給体制について

現在、弊社は静岡県、岩手県、大分県にある３つのAIセンターから、全国の農場に対してメンデルデュロックの精液を安定的に供給する体制を確立しています。

これにより、どの地域のお客様にも迅速かつ確実に精液をお届けできるよう、強固な供給ネットワークを構築しています。（現在、北海道のみ豚熱ワクチン接種のため出荷できません。）

■ご利用のお客様の成績

弊社商品をご利用いただいているお客様の格付成績データ（2025年３月677頭出荷）において、全国平均と比較して非常に良好な結果が得られました。

以下は、（公社）日本食肉格付協会が提供する「豚枝肉格付情報提供システム」で確認された実際のデータをもとに、成績内容をグラフ形式でご紹介しています。

図７の等級割合では生産者平均では「極上」が

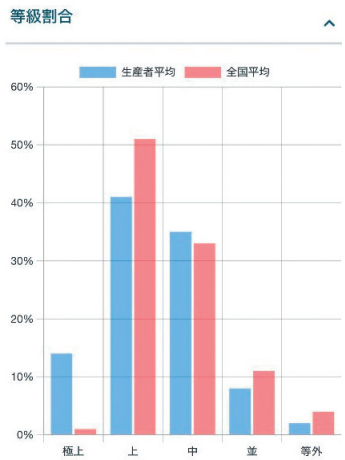


図７　等級割合

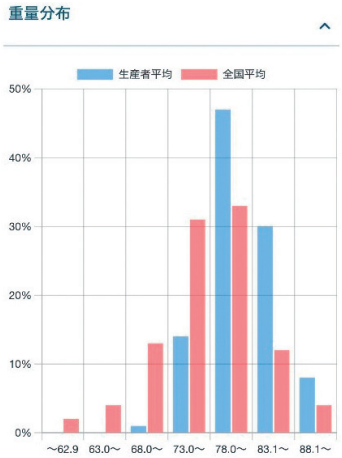


図８　重量分布

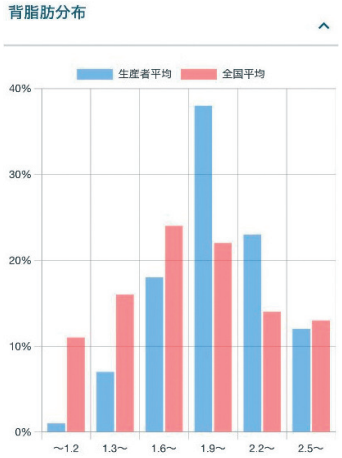


図９　背脂肪分布

14%、「上」が41%と、合わせて55%を占めています。

全国平均（極上：１%、上：51%）と比較しても、非常に優れた成績となっており、肉質や仕上がりの安定性が高く評価されていることがうかがえます。

図８の重量分布では、68～83kgの「上」範囲に約62%が集中しており、特に78kg以上では47%と高い割合を占めています。

これは、仕上がりの安定性と効率的な出荷体制が実現されていることを示しています。

図９の背脂肪厚分布では、1.3cm～2.4cm以下の「上」範囲に全体の86%が集中しており、全国平均（赤線）と比べてばらつきが少なく、特に1.9cm前後に集中。

背脂肪の厚みが安定しており、品質の高さがうかがえます。

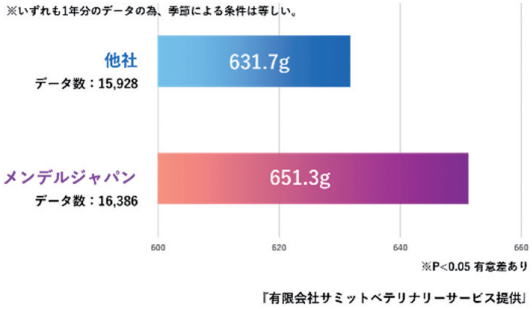


図10　平均１日増体重

■他社との比較試験（母豚600頭規模）

母豚600頭規模の農場において、他社製品とメンデルジャパン製品の比較試験を実施しました。

それぞれ１年分のデータであり、季節による影響は同条件となっています。

図10に示すように、平均１日増体重は他社製品が631.7gに対し、メンデルジャパンは651.3gと、19.6gの差が確認されました。

この増体改善による収益への影響を図11で試算したところ、年間で約1,243万円の収益増が見込まれます。

【１】増体によるメリット

項目	内容
1日あたりの増体量の差	19.6g
飼育日数	182.3日
生体増加量	19.6g×182.3日＝3.57kg
枝肉増加量（歩留まり65%）	3.57kg×0.65=2.32kg
販売単価（2024年関東3市場平均652円,平均各落ち幅23円）	629円/kg
売上増加額	2.32kg×629円＝1,459円

【２】増体に係る飼料コスト

項目	内容
生体増加量	3.57kg
飼料要求率	2.80
飼料価格	70円/kg
飼料費	3.57kg×2.8×70円＝700円

図11　増体改善によるメリット

【3】増体によるメリットの全体効果

項目	金額
【1】売上増加額	1,459円×16,386頭＝23,907千円
【2】飼料コスト増	700円×16,386頭＝11,470千円
【3】差引利益	23,907千円-11,470千円=12,437千円

図11　増体改善によるメリット

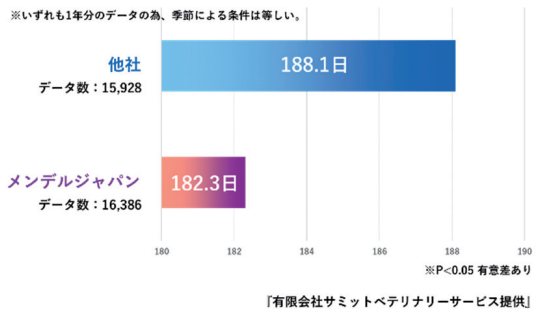


図12　平均出荷日齢

また、図12に示すように、出荷日齢についても、他社製品が188.1日であるのに対し、メンデルジャパンは182.3日と、5.8日早く出荷が可能となりました。

この差によるメリットを図13で計算すると、年間で約1,262万円の改善効果が示されています。

これらの結果からも、増体性能や出荷日齢の改善が経営に与えるインパクトは非常に大きいことが明らかです。

■おわりに

現在、メンデルジャパンは年間50万ドーズ（うち、日本養豚事業協同組合による取り扱いが約25万ドーズ）以上の精液を取り扱うまでに成長しました。

これはひとえに、日頃よりご愛顧いただいているユーザーの皆様のご支援の賜物です。

今後も、皆様の信頼にお応えすべく、最高のデュロック種豚と最高品質のAIサービスを提供するため、社員一同、引き続き全力を尽くしてまいります。

出荷日齢短縮によるメリットの全体効果

項目	
出荷体重（生体）	182.3日×651.3g=約118.7kg
枝肉重量（歩留まり65%）	118.7kg×0.65=約77.1kg
販売単価（2024年関東3市場平均652円,平均各落ち幅23円）	629円/kg
出荷日齢短縮	5.8日
出荷頭数	16,386頭
年間資金回転効果	77.1kg×629円×（5.8日÷365日）×16,386頭＝約12,627千円

図13　出荷日齢短縮によるメリット

会社紹介動画

雄豚の様子を多数アップ中！

枝肉紹介動画

買参人や加工業者様より正肉歩留が良いという評価を多くいただいています

第25期中四国支部セミナー開催

第25期中四国支部セミナーは２月14日（金）愛媛県松山市のホテルトップイン松山にて開催されました。講師および事務局含む総勢47名（組合員17名、賛助会員24名、非会員１名）が参加しました。講演は大分県中津市を中心に３農場で母豚1500頭一貫経営をする福田実氏（㈲福田農園代表取締役）に「病気と闘わない養豚経営にむけて」と題して講演いただきました。

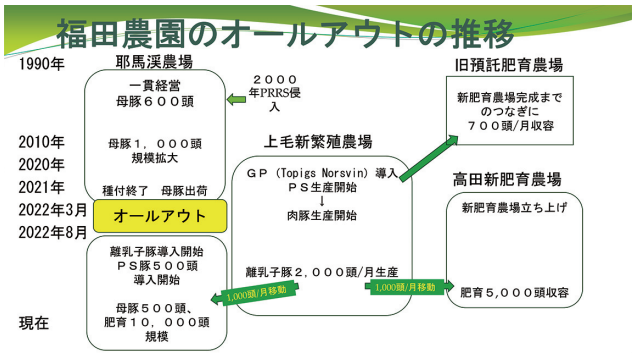
○農場情報
- 大分県中津市、他２農場
- 母豚1500頭
- 品種：Topigs Norsvin　GP導入
- 飼料：配合飼料、リキッドフィーディング併用

福田農園、オールアウトで事故率大幅改善

養豚用地を求め、佐賀県から大分県中津市耶馬渓町へ移住し、母豚600頭の一貫経営をおこなう中、2000年にPRRSが侵入し一時事故率が30％近くまで上昇し、以降手は尽くしたものの事故率が20％という状況が20年続いておりました。そこで農場を閉鎖して病気を抜く決断をされました。

しかし、長年銘柄豚として「錦雲豚」を販売していたこともあり、生産を止めることなくオールアウトを実践するため、新農場設立も同時に行われました。その際は今後病気の侵入を許さないように繁殖と肥育を分離して２農場を設立し、豚の出荷は自社車両で行い、飼料の搬入も農場外からできるような形にするなど徹底した農場バイオセキュリティを構築されました。既存農場を2022年３月から８月まで５か月間オールアウトして徹底洗浄して病気をぬき、その結果として離乳後事故率は５～６％まで低下しました。

また成績が各段に向上したため、「病気で10％ 20％と失っていた利益を思うとこの投資は充分に取り戻せる。」と話され、いかに病気と闘わないことが有益か強調されました。こちらの内容は以前のゆめ通信133号に詳細をご紹介しておりますのでそちらをご覧ください。



図①　㈲福田農園オールアウト推移

設備投資シミュレーションの紹介

設備投資資材が高騰し、豚舎の建築コストはここ数年でかつてない高まりを見せております。しかし、豚舎の老朽化はまったなしであり、養豚経営を継続していくための豚舎の建て替えという設備投資は避けて通れない事項です。そこで豚事協では、どれくらい成績を上げていけば投資金額に見合うかをシミュレーションし、この度支部セミナーにて公開して議論いたしました。

昨今豚舎の新設は１母豚当たり400万円がかかると言われておりますが、600頭一貫経営で１母豚あたり400万円とした場合を想定しました。15年返済で年利1.15％として24億円借り入れの場合、コストを計算すると１母豚あたりの年間出荷頭数は28頭、出荷枝重量77.7kg、農場FCR2.82（飼料費62円/kg）とすると枝肉１kgあたり545円と計算されます（図②参照）。JASVベンチマーキング2023年において、枝肉販売価格平均の中央値は552円/kgでしたので、この試算では、利益を出し続けていくには難しさもあります。会場では投資するからにはハイヘルスな環境を前提に好成績が求められるのではないかという指摘もあり再計算いたしました。薬品費（ワクチン、抗生剤費用）は834円とし、労働効率の向上も図り、600頭一貫経営で、必要な人員７人と想定していたものを5.5人とし１母豚あたり年間30頭出荷として農場FCR2.60（飼料費62円/kg）だとすると枝肉１kgあたり499円と計算されます。

会場からは、不可能ではないが高いハードルであ

3年猶予、15年返済					
1母豚当400万円	母豚600頭	1母豚あたり	24	億円	
2177kg/母豚/年			28.0	頭出荷/母豚/年	
飼料費	62円/kg	出荷生体重平均	120kg	DG（生涯g）	738g
農場FC	2.82	歩留	65.1%	出荷日数	162日
		出荷枝肉重量平均	77.7kg		
人件費			2,292	7	従業員数
薬品費			834		
出荷/年/母豚　1肉豚返済コスト（15年返済）			9,524	2400 頭/人/年	
平均利子1.15%（元利均等で計算）			821	2,292 円/頭/人	
水光熱費			2,000		
屠場、運搬			3,500		
種豚費用（AI1500円×２回）÷　出荷頭数/腹			274	PS代金	平均5産
母豚コスト　廃豚売上と相殺			706	80,000	62.5
諸雑費			1,500	35,850	↑母豚生涯
飼料コスト（飼料費×FC×生体重）			20,893	44,150	35850
		49% ※売上飼料比率			
コスト合計			42,345	円/肉豚	飼料費
枝kg平均コスト			545	円/kg	
枝肉販売価格平均　※JASVベンチマーキング2023年中央値			552	円/kg	FC

図②　設備投資シミュレーションの例
※現在豚事協では継続できる養豚経営のために、設備投資シミュレーションをより実用的なものにしていくため改良中です。

るとの声がありました。今後を見据えていくと、豚舎の性能も向上しており、耐用年数ものびてきているため、20年返済という想定が必要となってくるのではないかと議論されました。20年返済となると当然ではありますが返済にかかる費用が減り、最初に計算した545円/枝肉kgのコストであったものが514円/kgに、経費を再検討した後の499円/kgであったものが472円/kgとなりました（金利1.15％で計算）。一方で今後は金利の上昇も加味していかなければならないとの指摘もあり、議論されました。どちらにしても、今後は農場での成績を向上させていかなければ新規に設備投資は困難であり、講演で福田氏の事例紹介にもあったように、病気のない、あるいは少ない環境で養豚経営をしていくことが求められていくだろうとご意見をいただきました。

第４回若者が夢を語る会　2025年６月開催

2022年、2023年と２年続けて東京で開催され、多くの組合員の皆様にご参加いただきました「若者が夢を語る会」。昨年は養豚業界で働く女性に限定した会合、「若夢女子会」を開催し多くの養豚に関わる女性にご参加いただき、新聞に掲載されるなど大きな関心を呼びました。

今回はFAITES代表獣医師・渡部佑悟先生をお呼びして「養豚場のチームビルディング」をテーマに、実際の農場でのレベルアップを目的とした従業員トレーニングの在り方や、場員定着を促す上司の関わり方について講義とワークショップを開催いたします。養豚場だけの問題ではありませんが、新たな人材確保が難しくなってきている中で、今いるスタッフに継続的に働いてもらわないと困ってしまう、ということをよく伺います。そのため、今回はアメリカの養豚場で研修され帰国後に「教育養豚戦略コンサルタント」として開業された渡部佑悟先生に２日間ご指導をいただきます。各農場が課題として抱えている、働き方や仕事の仕分け・仕組みがよりよいものになるように講義だけではなく実際を想定して学ぶワークショップをまじえた研修を行います。ぜひともお悩みをお持ちの農場の方やマネージャー、マネージャー候補生の方に学んでいただきたい内容になっております。

前回までと同様、座長は日本養豚事業協同組合・山本副理事長のもと豚事協組合員に限らず、養豚農家、養豚企業で働く方であればどなたでも参加できるオープンな場として開催いたします。申し込みはゆめ通信同封の申込書または下記ウェブフォームにてお願い致します。是非とも皆様お誘いあわせの上奮ってご参加ください。

記

日時：2025年６月26日（木）13時30分～ 17時00分、懇親会18時
　　６月26日（金）　９時～ 12時
場所：ビジョンセンターグランデ東京浜松町
会費：セミナー無料、懇親会１人5,000円
申込：申込書FAXまたはウェブフォームよりお申込み※事前申込制（定員あり）
フォーム（https://forms.gle/JrTKbrLXB64FbmNM７）

第25期沖縄支部セミナー開催

２月28日沖縄県教職員共済会館（那覇市）にて沖縄支部セミナーを開催し、講師および事務局含む総勢51名（組合員17名、賛助会員17名、非会員13名）が参加しました。

開会に先立ち嘉数雅人支部長は「沖縄県内ではと畜頭数31万頭を維持してきましたが、令和５年に29.7万頭まで落ち込んだことは我々にとってショックな出来事でした。その原因として廃業もありますが、折角導入したハイブリッド豚の生産能力を生かせていないということが一番の原因だと思います。自農場でも昨年夏の暑さの影響もあり離乳子豚の事故率が大きく上昇しました。今年は夏場対策を早めに講じる予定ですが、すぐ出来るものとして豚事協でも販売しているネオドリンク（中鎖脂肪酸）を出産後の子豚に飲ませることで、２月の事故率は落ち着いてきました。暑さはこれからが本番ですので、しっかり管理して来年のセミナーでは良い報告が出来るようにしたいと思います。また、輸送コストが加わるため飼料コストが他県に比較してより大きな負担となっていることも大きな問題です。昨年は飼料価格の高値安定が続き、配合飼料安定基金も発動しない厳しい状況下での経営となりましたが、沖縄県単独で飼料対策支援もあり、なんとか耐えたという農場もあったのではないかと思います。枝肉相場が高かったにも拘わらず固定相場で取引をしている農場も多く、かえって厳しい１年になったと感じている方も少なくないはずです。自農場ではメンデルデュロックを２年程利用した結果、豚の成長だけではなく格付結果も良くなり、沖縄でも全国平均に劣らない格付結果を得ることが出来ました。これらの沖縄の状況を踏まえて、高い利益を上げ続けている水野さんの講演からは沖縄でも生かせるヒントを沢山得て、武田先生の講演からはデータに基づく具体的な改善策が生産性向上やコスト管理にどうつながるのかなどしっかり勉強し、経営に生かしたいと思っています。今日のセミナーがみなさんにとって実践的な知恵を得る場となり、明日への一歩へとつながることを願っています。」とあいさつされました。

その後、宮城県登米市で母豚600頭の一貫経営を営む水野慎太郎氏（㈲みずの代表取締役）に「利益最大化の勘どころ～他力本願のすすめ～」、そして㈲みずのの管理獣医師でもある武田浩輝先生（㈲アークベテリナリーサービス代表取締役･獣医師）に「JASVベンチマーキング」と題してご講演いただきました。

講演１：利益最大化の勘どころ ～他力本願のすすめ～（水野慎太郎氏）

（有）みずのでは、種豚Topigs Norsvinにメンデルデュロック精液をかけて、餌は全量豚事協の“ゆめシリーズ”を使っている。元々は稲作がメインで母豚30頭の繁殖から養豚経営が始まり、その後一貫経営に移行したものの、それだけではなかなか安定した収入が得られず、野菜や花卉なども試みて苦労している父親の背中を見て育った。水野氏が中学生だった平成７年に宮城県の生産者グループに加入し、母豚150頭の一貫経営となり法人化後、平成18年に母豚430頭の一貫経営（150頭と280頭の２農場）となる。25歳（平成14年）で実家に戻り就農。大きな転機となったのは豚事協に加入し、Topigs PSを導入し、武田先生のコンサルテーションをお願いすることになった平成28年で、その頃から成績が向上した。平成29年に農場を増設し、母豚650頭に増頭、令和２年にTopigs GP導入に切替え、現在の母豚数は600頭である。最近では学校給食に豚肉を無償提供したり、不登校の子供が増えてきていると聞いて何か出来ないかと考え、高校の同級生と３名でNPO法人を立ち上げ、週に１回不登校の生徒の親子を集めてバドミントンをする場を提供しながら、その中でお母さん同士のコミュニティを広げる活動もしている。

水野氏には１月24日に開催した関東支部セミナーでもご講演いただいており、ゆめ通信No.138で詳しく紹介していますのでそちらをご覧ください。

講演２：JASVベンチマーキング（武田浩輝氏）

令和６年２月１日現在の畜産統計によると、飼養戸数は前年比240戸・7.1％減少し3,130戸になり、飼養頭数は前年比158,000頭・1.8％減少し895万6,000頭になっている。それらのことが今年の豚価に反映さ

れているのではないかと考えられる。子取用雌豚のいる戸数はさらに減り、前年比250戸減・90.5％の2,640戸となり、今年は更に飼養頭数は５万頭程減るのではないかと予測している。

JASVベンチマーキングによると、2011年に11頭だった生存産子数が2023年には13.18頭まで増えている（中央値）。総産子数も伸びて2023年には15.03頭になったが、離乳子豚数は11.66頭。令和４年に１母豚当たりの出荷頭数が20頭を超えたが、母豚数が減っているため実質の総頭数は減っている。今後は生産者が海外で遺伝的改良の進んだ母豚の能力をいかに出せていけるかということが大事で、またそれをどのように指導していくかということが我々獣医師の責務であると思っている。妊娠期、授乳期、哺乳子豚、肥育豚のそれぞれの管理について、更なる成績向上のためにはデータの活用がとても重要になる。経験からくるカンよりも科学的なデータと情報に基づいた意思決定が重要視されてきている。

自農場の成績を業界の中で位置づけるのがベンチマーキングである。儲かっている農場と何が違うのかなどを明確にでき、自農場の立ち位置を知ることで従業員が自農場の成績に興味を持ち、弱点が見つかり他農場の成績が見えることで意欲に繋がり、成績が上がることで仕事を楽しくすることにつなげられる。ベンチマーキングの成績を利用してボーナスを支給している農場もある。また最近では金融機関が農場査定のためにJASVベンチマーキングや独自のベンチマーキングの数字を利用し始めている。

JASVベンチマーキングの結果から東海地区ではTopigs Norsvinを導入し飛躍的に成績が向上したことが判っていたが、（有）みずのではTopigs PSの生産成績が伸びていなかったことから、母豚のボディコンデションの状況を意識した管理を徹底することにし、東海地区の成績を目標に成績改善を試みた。過肥になりがちだった更新豚の飼料の調整、妊娠後期の給餌量の変更、分娩舎でいかに飼料（リジン）を多く摂取させるかなどの対応をしたことで、年間の１母豚当たりの離乳頭数が東海地区を超えるまでになった。

JASVベンチマーキングは現在全国の飼養母豚数約20％となる180農場が参加する国内最大級のデータベースとなっており、養豚管理獣医師が提出されたデータの内容確認を行い、分析結果の説明や実際の農場での活用に至るまでアドバイスを行っている。現在の養豚の状況として、飼料や資材が高騰したが豚価が高かったため利益を上げることができた農場がある一方で、赤字経営の農場もある。アメリカ農務省が2028年までに日本の養豚生産力は14％減少すると予測している。また、口蹄疫、豚熱を撲滅した台湾は日本への豚肉輸出を検討している。アフリカ豚熱侵入の危機もある。農場のバイオセキュリティをきちんと整え、海外の豚肉に席巻されるという状況にならないよう常に生き残りをかけた戦いが必要である。

講演終了後には懇親会を開催し、活発な意見交換が行われ、第25期支部セミナーの最後となる沖縄支部セミナーが終了しました。（東野）

※JASVベンチマーキングについてもう少し詳しく話を聞きたいという方は、豚事協事務局でも相談に応じます。遠慮なく気軽にお問い合わせください。

武田浩輝先生

沖縄支部セミナーの様子

豚事協共同購入資材のご案内

アミノ酸資材「ゆめアミノ」新発売

【特徴】

「ゆめアミノ」はリジン、アルギニンを中心としたアミノ酸資材です。豚に必要なアミノ酸が利用されやすいように､ゆめシリーズの「ゆめ種豚78（授乳期用）」とほぼ同じアミノ酸バランスで設計されております。例えば、夏場など食滞が起こってしまった授乳期の母豚へのアミノ酸補給によって離乳後の痩せすぎを緩和します。

また今年から移行が始まったTopigs Norsvinの母豚TN70は育成期から初産妊娠・授乳期に今まで以上にアミノ酸を多く要求することから、その補給にも使用することができます。豚用資材では非常に珍しいアルギニンを多く配合しています。アルギニンは母豚での繁殖活動をサポートする機能も報告されており、出生時体重の増加、哺乳中事故率の低減、哺乳中の子豚増体の改善などの効果が期待されます。

○主な成分：リジン、メチオニン、トレオニン、トリプトファン、バリン、イソロイシン、アルギニン、カルニチン、ヒスチジン

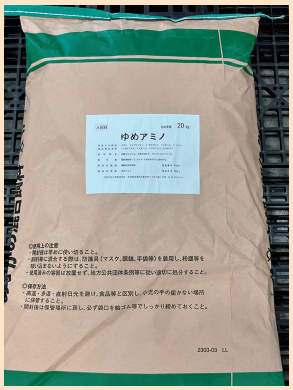
○主な使用方法　各ステージ不足に応じて添加、下記は目安です。

母豚育成期：アミノ酸の不足に応じて添加、20 ～ 40ｇ/頭・日
　　または飼料に１～２％添加

母豚妊娠期：特に初産、２産にアミノ酸の不足に応じて添加、
　　20 ～ 40ｇ/頭・日または飼料に１～２％添加

母豚授乳期：例えば、ゆめ種豚78であれば当製品を80ｇ/頭・日
　　添加が１kg摂取のアミノ酸量に相応

【価格】１袋20kg　19,200円（送料込み、税抜き）税込み21,120円
　　ご注文は１袋から承ります。
　　☆製造はあすかアニマルヘルス㈱です。



豚事協共同購入資材のご案内

洗濯用洗剤「ゆめウォッシュ液体タイプ」新発売

【特徴】

農場の実際の洗濯現場にマッチする、豚事協オリジナルの業務用強力洗濯洗剤です。水に溶けやすい液体タイプを新発売！

① 洗濯のプロが使用する業務用の洗剤を、家庭用洗濯機および常温水でも使用できる様に配合調整したオリジナル洗剤です。

② 汚れがしっかり落ちるので、仕上がり品の臭いもスッキリします。消臭剤でごまかさない、プロ向け洗剤の強力な洗浄力があります。

③ 汚れがしっかり落ちるので、衛生的な作業着に仕上がります。

④ 生分解性の良い原料のみ使用しているので、浄化槽･曝気槽･排水処理場への流入にも安心してお使い頂けます。

○原材料名：炭酸塩、珪酸塩、リン酸塩、高級アルコール系界面活性剤脂肪酸塩、その他成分

○主な使用方法

標準使用量：水30ℓ（被洗物重量1.5kg）　あたり　20 ～ 25ml

※汚れが激しいとき　40 ～ 50ml

【価格】

・液体４kg×４本　7,300円（税抜き）税込み8,030円　※別途送料

・液体18kg　6,300円（税抜き）税込み6,930円　※別途送料

ご注文は１箱から承ります。

☆販売は㈱アセラです。

ゆめウォッシュ
液体４kgボトル

ゆめウォッシュ
液体18kg箱

「矢原の部屋」Vol. 10

専務理事　矢原　芳博

みなさんこんにちは、皆様のお悩み相談窓口「矢原の部屋」です。早いもので今年ももう５月になってしまいました。１年の３分の１が過ぎて、豚事協もこの５月から新たな年度（第26期）が始まりました。新たな気持ちで頑張りますので皆様よろしくお願いします。

さて、昨年度の支部セミナーでは、全国７か所で「病気と闘わない養豚」をテーマに、ハイヘルス化により生産性を向上させて収益を上げた生産者の方々にご講演をしていただき、大きな反響をいただきました。今年も各地でセミナーを企画してまいりますので皆様奮ってご参加ください。

今回は繊維の話をしましょう。

過去２回、飼料の栄養の話をしてきましたが、今回は食物繊維（以後は繊維と略します。）の話をしたいと思います。前にもお話ししましたが、いわゆる５大栄養素とは、炭水化物、脂質、たんぱく質、ビタミン、ミネラルの５種と言われていますが、これらはいずれも消化されて、エネルギーになったり、身体の構成要素（材料）になったり、身体の調子を整えたりする機能があるので、栄養素と呼ばれています。

これに対して繊維は、反芻動物以外の動物が口から食べても消化されないので、身体のエネルギーになったり、身体を構成する材料になったりしません。したがって繊維は、「栄養的価値の無いもの」であり、豚を効率よく育てるためにはあまり役に立たないものであるという認識が過去には一般的だったかもしれません。

繊維は意外に役に立っている。

しかし、どっこい繊維は実は豚を含めた単胃動物に対しても、様々な役割があることが分かってきています。繊維をたくさんとる事で腸が刺激されて便通が良くなる、という事は昔からよく知られておりますが、豚の発育にとっても非常に良い効果がある事が、ここ最近の研究でもわかりつつあります。その事から繊維は「第６の栄養素」とも言われるようになりました。

繊維の役割の基本編

現在、定説となっている繊維の役割についてお話しする前に、繊維には２種類あることを説明します。簡単に言うと水に溶ける繊維（水溶性繊維）と水に溶けない繊維（不溶性繊維）の２種類です。

水溶性繊維は水に溶けるとゼリー状になり、小腸での栄養吸収速度に影響を与えたり、腸管内のコレステロールを排出したりする効果があります。また、不溶性繊維は水分を吸収して大腸を刺激することで排便を促したり、腸内の有害物質を吸着し排出します。このような効果は人の健康においてはかなりの効果が期待できるということで、繊維を主成分としたサプリメントがたくさん販売されています。このような繊維の基本的な効果については、豚に対してもその健康状態の向上という意味である程度の効果が期待できるとは思いますが、繁殖や増体などの直接の生産成績に及ぼす効果については、過去には明確なデータが少なかったため、豚の飼料への応用はまだあまり進んでいないのが日本の現状だと思います。

繊維にはさらなる効果が期待できる？

しかし世界的には、例えばドイツでは豚の妊娠期用の飼料に８％以上の粗繊維を含むか、あるいは１日に200ｇ以上の粗繊維を母豚に与える事が法律で定められているそうです。つまり上記の基本的な効果に加えて、敢えて繊維を増給するメリットがあると考えているという事ではないかと思われます。

そこでごく最近の日本での知見をご紹介させていただきます。摂南大学の井上教授のチームは、産子数の多い母豚群と少ない母豚群の腸内細菌叢を比較調査したとところ、産子数の多い母豚群の腸内細菌叢は腸内の繊維の分解能力が高い事を発見しました。

繁殖成績の高い母豚は繊維を分解して得られたエネルギーを有効に活用している可能性がある、と考察しています。つまり豚自身は繊維を消化できないが、豚の腸管内に生息する腸内細菌叢は繊維を分解して、豚が使えるエネルギーを提供してくれているという事が分かってきました。

豚事協でも繊維資材を販売しています。

このように繊維のさらなる有効性を期待して、豚事協でも、繊維を主成分とする資材を販売しております。「ゆめファイバー」は、水溶性繊維であるアラビアガムを主原料とした製品です。また、直近では「アーボセルRC-FINE」を販売しましたが、これはリグノセルロースという不溶性繊維の商品です。上述した母豚への給与による繁殖成績の向上だけでなく、肥育豚の胃潰瘍の症状緩和や哺乳豚への給与による健康状態の改善など、すでにお使いの皆様から手ごたえがあるぞ！という声を多数いただいております。さらに哺乳豚の身体の乾燥用の資材として、吸湿性に優れた「アーボセルＲ」という商品も取り扱っております。

まとめ

最後はちょっと宣伝めいてしまいましたが、豚事協としては、これまで注目を浴びてこなかった繊維について、欧米の最新の情報も取り入れながら、皆さんにその効果についてお知らせしていく事も重要な役目と感じております。今後も豚の生産性を向上させる鍵についてお伝えしていければと思いますのでよろしくお願いいたします。

以上

第25回 通常総会開催のお知らせ

第25回通常総会を下記要領にて開催いたします。ぜひとも皆様お誘いあわせのうえ奮ってご参加いただきますようお願い申し上げます。別途総会のご参加の案内は総会資料と共にお手元にお送りいたします。

開催日時：令和７年７月25日（金）午後１時30分～
開催場所：**大手町サンケイプラザ**
東京都千代田区大手町１-７-２　TEL03-3273-2230
丸の内線・半蔵門線・千代田線・東西線・都営三田線
「大手町駅」Ａ４・Ｅ１出口直結
JR「東京駅　丸の内」北口より徒歩７分

議　　案：◆第25期事業報告、決算（案）の承認
◆理事、監事任期満了に伴う改選
◆第26期事業計画案の承認
◆経費の賦課徴収方法の決定

なお、総会終了後、記念講演会及び懇親会を行います。

アクセス

編集後記

＊ ＊ ＊

トランプ関税で世界経済は大混乱、釈迦に説法だとは思いますが関税について考えます。

16～18世紀の重商主義時代は、国家が積極的に経済に介入し輸出を増やし輸入を抑制することで貿易黒字を拡大し、対価として支払われる貴金属（金銀）を蓄積することが豊さを得ることと考えられていました。

18世紀後半、アダム・スミスは『国富論』において重商主義を批判し、自由貿易の優位性を主張。「見えざる手」の原理から市場経済における自由な競争の優位性と比較優位の原理により各国が最も得意な分野に特化して生産・貿易することで、世界全体の生産量が増加し、消費者はより安価で多様な商品を手に入れることができるようになるとしました。

19世紀に入ると、イギリスは産業革命をへて世界の工場としての地位を確立しました。自由貿易を掲げるイギリスでは穀物法が廃止され、国内保護のための輸入穀物関税を廃止して他国から安い穀物を受け入れました。そして他国には関税引き下げを働きかけヨーロッパで関税引き下げの動きが広がり国際貿易が拡大しました。

しかし、1929年世界恐慌で各国は自国経済を守るため保護貿易政策に回帰。とくにアメリカは1930年関税法を制定し、大幅な関税引き上げを実施。アメリカ国内産業保護のため２万品目以上の輸入品に関税を課したことで結果的に世界貿易を縮小させ、世界恐慌を深刻化させたと批判されています。第二次世界大戦後は世界恐慌の反省から、自由貿易体制の再構築を目指す動きが強まり、1947年にはGATT、2001年WTO発足は記憶に新しいことです。

トランプ関税はこの100年前の保護貿易に戻るような政策です。100年前と違いこれほどまで経済の実態が世界中緊密に連携したものとなった現在にはまさに資本主義経済社会の歴史的転換点です。いいか悪いかは別ですが。そんな話題のアメリカに今年も豚事協海外研修で行きますので現状から日本がどうあるべきかしっかり学びたいものです。（加）